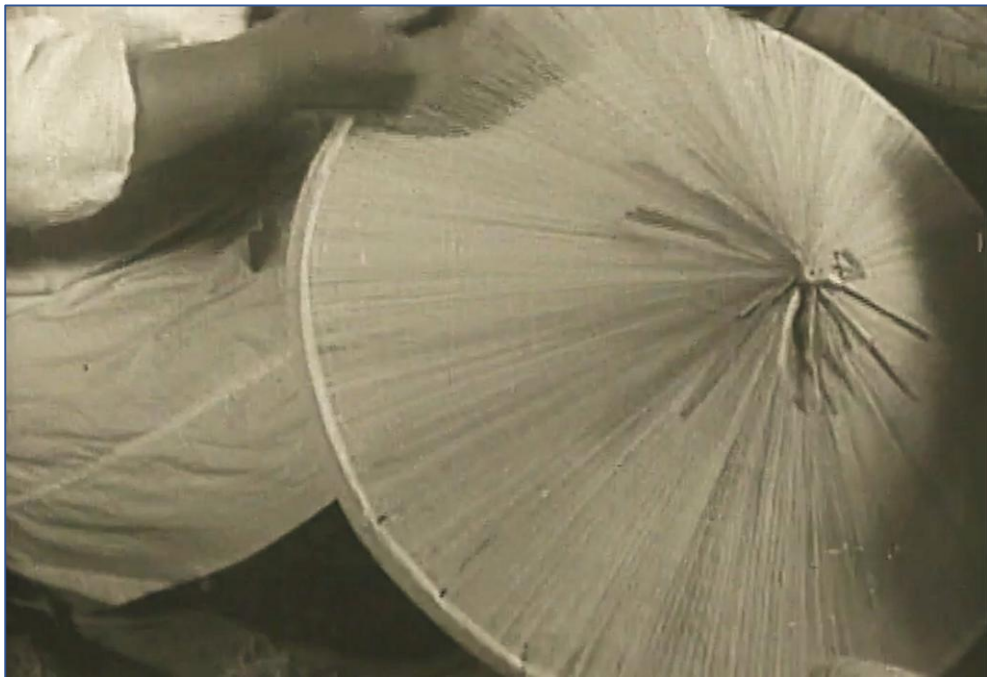


すげ笠の出荷前のようす

清水杉谷町で撮影されたものと思われます。(軒下ですげ笠を干す写真は下天下町と思われます。)

昭和 35 年頃



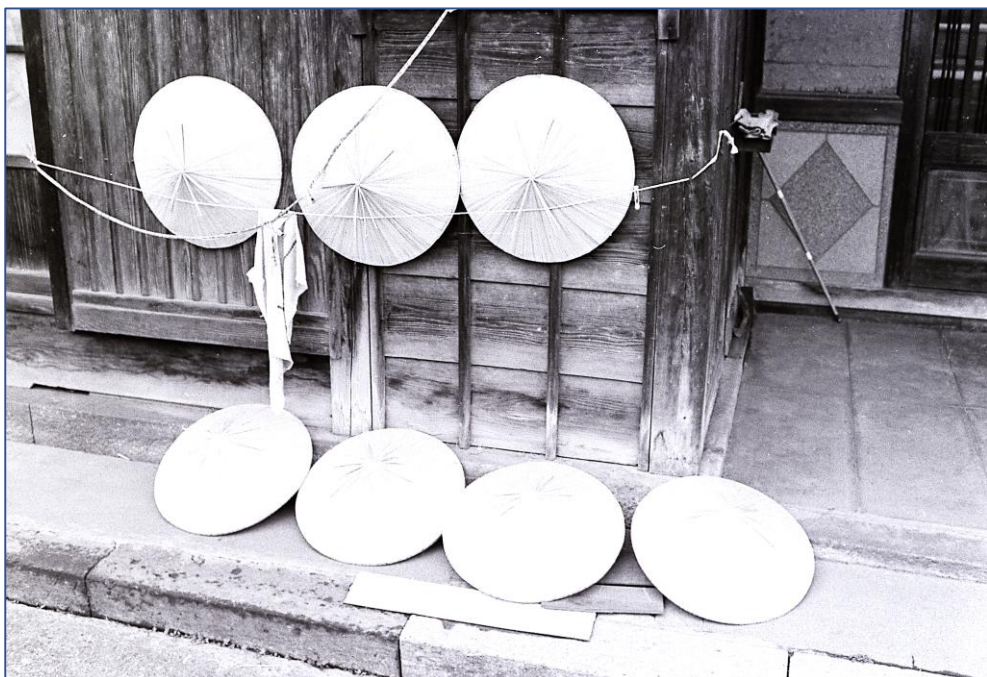
【すげ笠を出荷する前のチェック作業のようす】



【すげ笠を出荷する前のチェック作業のようす】
手前の笠骨も束になっている事から、笠骨も出荷されていたと思われます。



【すげ笠を出荷する前のチェック作業のようす】
※手前の女性がすげ笠を並べているのは、カメラマンのリクエストによるポーズと思われます。



【すげ笠の仕上げ干しのようす】
仕上がった笠は外で干し、白くなると完成ですが、笠を作る時期が冬季であり天候が悪い日が多いため軒下に干し場を作って乾かすことが多かったようです。



【すげ笠の仕上げ干しのようす】
冬季でも天気が良ければ平場も利用して干すことがあったようですがこれは、カメラマンのリクエストによるポーズと思われます。

すげ笠を被った農作業のようす

昭和 35 年頃



【苗代でとった苗束を田植えをする田んぼへ運搬】

苗代(なわしろ)で束ねた水気をいっぱいふくんだ泥付きの苗は大変重く、それを苗籠に入れ天秤棒で田んぼへ運ぶのは力のある男性の仕事でした。山並みなどから、三留町で撮影されたものと思われます。



【田植えのようす】

昭和30年代の頃でも、まだ田植えはとなり近所の人たちも手伝ってみんなで田んぼに苗を植えます。すげ笠が真新しいのは、撮影用に新調したのではないのでしょうか。左写真と同じく三留町と思われます。なおこの頃でも田植え時期は学校も休みだったというのは本当でしょうか？



【田植えのようす】

手前に束ねられた苗がありますが、遠くから放り投げられたものです。地味に正確なコントロールが要求されます(笑)。なお、野良着が同じ柄の寸短の着物前で統一されています。撮影用にあつらえたものと思われます。



【ぶどう山でのようす】

現在、清水杉谷町のJAカントリーがある一帯は、この頃はぶどう山として開発されたばかりでした。写真は、収穫したぶどうを運んでいるのでしょうか。



【ぶどう山でのようす】

ぶどうの手入れに余念がありません。普通にすげ笠を被って作業されています。

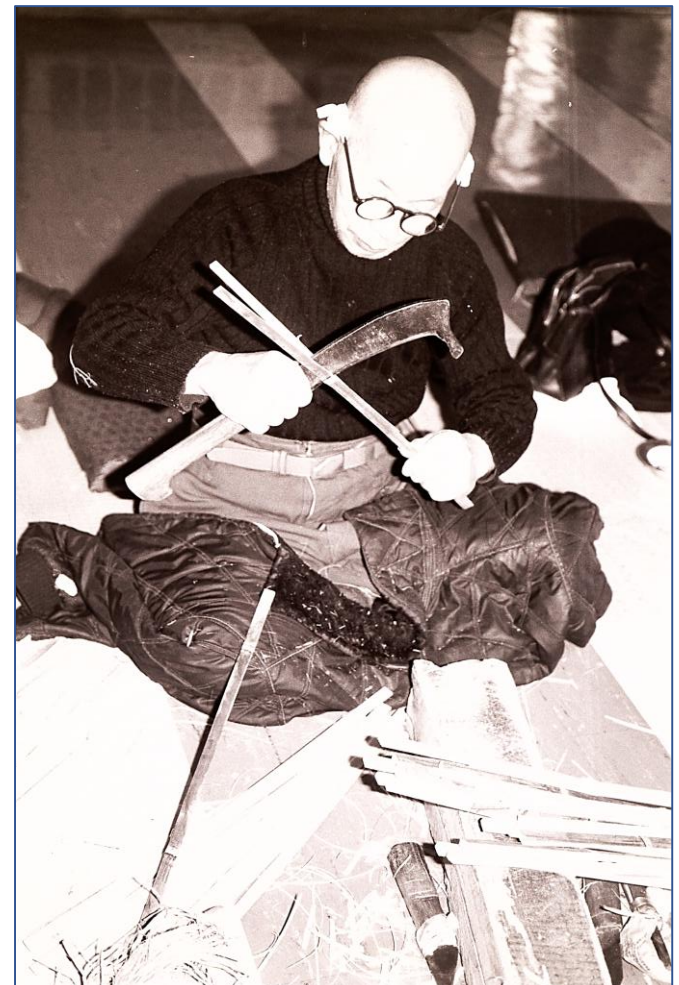


【ぶどう山でのようす】

この山で生産されたぶどうは糖度も高く品質がよいと評判でしたが開発されてから数年後、病気が蔓延しやむなく栽培を断念せざるを得なくなりました。

骨ぐみをつくる作業のようす

昭和 40 年代



すげ笠の骨ぐみをつくる作業は、道具やスタイルも含め昔も今もほとんど変わっていません。
完成したばかりの社会福祉センターで撮影されたものと思われます。

平成 31 年

2019(平成31)年2月頃の、すげ笠づくりでのワンシーンです。
本当に、骨ぐみづくりのようすは昨今変わりませんね。
清水東公民館で撮影されました。

すげ笠づくりの体験学習



笠縫いの作業のようす

昭和 40 年代

すげ笠の笠縫い作業も、骨ぐみ作業同様、昨今変わりません。 社会福祉センターで撮影されたものと思われます。



下天下町で撮影されました。



すげ笠づくりの見学会



すげ笠づくりを見学している子どもたちのようすです。地元の清水東小学校の児童と思われますが、背格好から中学校の生徒(清水中学校?)かもしれません。いずれにしても、この年代で既に後継者育成に尽力している状況が伺えます。
清水杉谷町の集落センターで撮影されたものと思われます。

令和 6 年

2024(令和6)年11月20日、清水東小学校で開催されたすげ笠づくり体験学習のようすです。参加者は5年生の児童のみなさんです。例年、清水東小学校では、5年生の児童がすげ笠づくりを体験しており、少なくとも 約 50 年以上、後継者育成に取り組んでいます。清水東小学校多目的ルームで撮影されました。

すげ笠づくりの体験学習

